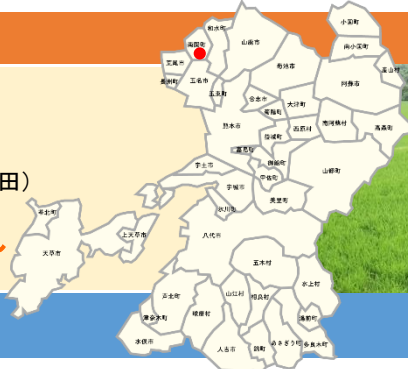


よなだ

⑫米田地区(南関町)

- ◆農家戸数 26戸
- ◆農地面積 25.5ha(うち17.4haは水田)

南関の水田地帯に新しい風を！ ～未来へ繋がる組織づくりと新しい作物への挑戦～



[中山間農業ビジョンの概要]

集落の課題(現状)

- 高齢化の進行。65歳以上が5割
- 小規模、水稻単作で低収益
- 農業機械は各戸所有で過剰投資
- 基盤整備が進んでいない
- 暗渠整備不足で、水はけが悪い
- 高収益作物の作付ノウハウがない

目指す将来像

- 暗渠排水事業と露地野菜の作付
- 高収益作物の作付と所得向上
- 最小限の農業機械で最大の耕作面積
- 米のブランド化、販路開拓
- 集落全体で鳥獣被害対策
- PR企画による販売強化・地域活性化

具体的方策

- 基盤整備の実施(畦倒し、暗渠排水事業)
- 所得の確保(高単価作物の導入)
- ブランドPR(米のパッケージ制作、ブランド化)
- 農家の負担軽減(センチピードグラスの導入)
- 機械の共同利用化
- 鳥獣被害の軽減

[ビジョン策定のプロセス]

ビジョン策定以前

- ◆度重なる河川氾濫による苦勞が絶えなかった地区。
- ◆そのため、昭和58～61年に水害防止へ向けた基盤整備を実施。
- ◆平成28年頃から集団営農の準備に着手。
- ◆水稻メインの地区であり、米農家同士のつながりは密であった。この地区内の関係性が、中山間農業モデル地区支援事業の推進母体となっていた。

農事組合法人「よなだ」設立

- ◆平成29年11月、営農組合組織の発起人会をスタート。
- ◆その後、行政とJAから法人化を勧められ、平成30年8月、農事組合法人「よなだ」を設立。
- ◆強力なリーダーによらず、全員で提案し、議論していく組織づくりを行い、協力体制を整えていった。



農業ビジョンの策定

- ◆平成30年11月、ビジョン検討スタート。
- ◆まず、県の主催・進行で説明会を開催。玉名地域振興局、南関町、JA、米田の米農家が集まり、意見や課題を出し合った。
- ◆平成30年12月6日、法人「よなだ」の定例会に合わせビジョン作り。ワークショップ形式で実施した。
- ◆ワークショップ後は、理事が県の会議に参加。会議で出た課題などを各地域に持ち帰り、地域で話し合った。



ビジョンの合意形成

- ◆毎年決まった行事(例：年2回の草刈りや道の補修などの共同の作業)があり、地区の人たちが集まる度に合意を取っていった。
- ◆米田の人間性、つながりで今日まで来ているので、このビジョン策定について強く反対する人はいなかった。

⑫米田地区(南関町)

南関の水田地帯に新しい風を！ ～未来へ繋がる組織づくりと新しい作物への挑戦～

[具体的な取り組み 計画と取組現状]

成果目標(令和4年度):①ナスの作付面積の10a以上増加 ②水稲裏作の露地野菜等の作付面積を10a以上増加

1. 基盤整備の実施

畦倒しの実施、暗渠排水事業の実施。

- ◆畦倒しについては現在計画中。水田整備についても検討中。
- ◆暗渠整備は令和元年度から3年での計画。令和2年1～3月で実施予定。

2. 所得の確保

高単価作物の導入による所得の向上。

- ◆高単価作物の研修計画はあるが、未実施。暗渠排水対策が最優先。
- ◆新たな露地野菜としてナスを導入。ナス以外は排水が悪く、収穫できず。

3. ブランドPR

米のパッケージデザイン制作、ブランド化の推進による所得向上。

- ◆パッケージデザイン、ブランド化は、まだ取り掛かれていない。
- ◆インターネットの活用など考えているが、組合事務所がないなど課題がある。

4. 農家の負担軽減

センチピードグラスの導入による畦草刈り作業の負担軽減。

- ◆現在、センチピードグラスの試験栽培を実施中。令和2年春、転植の予定。
- ◆薬剤散布用のドローンの自己所有が計画段階。

5. 機械の共同利用化

トラクター等の共同導入による営農コストダウン。

- ◆大型機械導入を計画しているが、資金がなく実行まで至っていない。

6. 鳥獣被害の軽減

えづけストップ事業の推進、先進地研修など。

- ◆令和元年、島根への、鳥獣被害対策の研修会に参加。
- ◆令和元年度、電柵を2セット購入。令和2年4月、2地区に設置予定。

[成果と今後の展開方向]

1. 全体的な成果

- ◆ナスの作付け、目標を達成し、さらに増加へ！
令和元年度にナスを15a作付けした。
令和2年度も15aを作付けする予定。
- ◆水稲の裏作については、試行錯誤しつつ検討中。



2. 今後の展開方向

- ◆ナスの作付目標は達成したが、資材は不足。新たな作付けのために、資材購入の検討が必要。
- ◆水稲の裏作も進めたいが、すべては暗渠排水の整備が優先。
- ◆情報交流・入手の場づくりへの支援を。
- ◆交付金区分枠に柔軟性を。